



こまえをこなげる こまえなNEWS

VOL.18
2018年12月17日
発行号

発行: 責任編集
狛江市岩戸北
3-18-8-701
狛江で分かりやすい
政治を伝える会



狛江市と
地域クラウドファンディングが
いじよになりました。



FAMVO 
CAMPFIRE

狛江市


FAAVOは、地域のがんばる人を、地域の人に応援する仕組み

狛江市は、地域クラウドファンディングFAAVO（CAMPFIRE社）とパートナー契約を締結し、自治体としてFAAVO東京調布・府中のエリアパートナーとなりました。市民の皆さんに当プラットフォームを活用いただくことで、ご自分やお仲間でのプロジェクト起案、資金調達やファン作りが可能となります。ミヤケが過去3年間にわたり下記の通り、狛江市長に働きかけてきた企画がようやく実現されました。詳しくは、「広報こまえ12月15日号」をご覧ください。

狛江市長へのプレゼンテーションシートを公開

市民自らが行政に頼らずに盛り上がりをもって行政が応援する

市民自らのアイデアを市民が応援する仕組みを行政がデザインする

「自分ゴト」だと市民は動く

狛江市が目指すまちづくり

市民参加 市民協働

実現するためには、「市民力を後押しする仕組み」が必要ではないか？

市民に分かりやすい**プラットフォーム**を標準装備

地域クラウドファンディング

「行政コストは限界。補助金以外の手段で市民に本気になってもらいたい」
鯖江市・牧野市長

市民や事業者の夢をかたちにするプラットフォームの役割を果たし、市民活動や商業施設・工場・農産物に活用

自治体側が“地域オーナー”としてFC契約を結ぶ

「地域の商業施設」や「市民活動を応援する窓口」としての自治体クラウドファンディング（導入型）

例 福井県鯖江市 **FAAVO** さばえ

そんな枠組みが**地域おこしに特化した地域版クラウドファンディング**

詳しくは、**狛江市に問い合わせして下さい。**



地域 × クラウドファンディング
FAAVO
東京 調布・府中

今回の契約

2つの方法論 その1

FAAVO 東京 調布・府中

地域パートナーに狛江市になる場合は、自治体パートナー無料という運用から費用はゼロ

狛江市民のプロジェクト起案者が狛江市を通して、地域オーナー（スカイスケール社）とやりとり

（8月下旬）
FAAVO岡山のパートナーとなる赤磐市のパートナー

株式会社スカイスケール社がエリアオーナーとして運営しており、狛江市でのプロジェクト起案に関する相談窓口となります。

2つの方法論 その2

FAAVO こまえ

狛江市がエリアオーナーになる場合は、スカイスケール社と要調整
FAAVO本部と契約は、年60万（月額50,000円）

基本的に窓口は、社協（こまえくぼ1234）等に委託する方法論が望ましい。FC本部からノウハウは供与される

パートナーは、地域団体、商工会、金融機関等含め増やしていく方法が望ましい。

将来的には、クラウドファンディング運営のスキルを身につけた狛江市（関係団体の可能性）がエリアオーナーとしてFAAVOこまえを運営する構想です。



同級生交歓

東京・千代田区 ビヤホール「ランチョン」にて（撮影 本社・松本雄一）

東京のど真ん中、神保町に位置する千代田区立一橋中学校（現在の神田一橋中学校）は公立校でありながら、地元の神田っ子以外にも多くの越境入学者を受け入れていた。千代田区が人口減少局面にあった昭和五十五年の卒業生の人数でさえ、一学年で三百人以上、そんな時代でもあった。四年前に盛大な同窓会が開催され、三十年余の時間を経て、多くの同級生が巡り合うことになった。それ以来、神田で創業百九十年の老舗ビヤホール「ランチョン」を舞台に定期的な同窓会が行われている。中学生時代、あだ名であるランチョンを知らない人はいないほどの有名な店だったのが鈴木。現在は繁盛店の四代目店主として、昔からの馴染み客、垂涎の生ビールを提供し続けている。卒業公演でピアノを披露していた佐伯はそのままだにアーティストとしての道を歩んだ。世界初の「マリ・アントワネット」曲集（紀本人が作曲したとされる歌）を出版したのは彼女の仕事である。内田とは偶然、昨年の市民マラソン大会で鉢合わせ。昔から長距離走を得意としていた彼は、人気モデル「日本の名城シリーズ」をはじめとする模型メーカーの社長として会社を牽引している。三宅は広告会社を長く勤めた後に介護職し、今では有権者に選挙で選んでいただく地方議員となった。政治評論家を生業としていた亡き父も驚愕しているに違いない。高井はこのメンバーで唯一のクラシック。バスケット部で活躍していた美少年であった。現在はフライングシャトルブランドとして終活相談を含めた幅広い講演活動も行っている。四十余年前、都心にあるツタの絡まる小さな校舎を卒業していった中学生たちは五十路を迎え、多くの仲間と再会する機会を得た。今宵も生ビールが冷えているうちに乾杯して、旧交を温めようと思う。（三宅）

TOPICS

文藝春秋に寄稿

同誌にて、五十年余の長きに渡り続く名物連載「同級生交歓」に寄稿させていただきました。（文藝春秋2019年1月号）

（右から）ビヤホール「ランチョン」店主
鈴木寛
重友社社長
内田宗宏
ビートル・音楽家
佐伯真魚
狛江市議会議員
三宅眞
フライングシャトルブランド
高井豪

